

■藤原兼子(卿二位)

ふじわらのけんし

頼長内覽停止1155=

後鳥羽上皇の乳母。上皇への取次役で人事権掌握し、権勢振るうも、承久の乱で水泡に。

保元の乱・・1156= 1歳：

学間に明るく、和歌会の主催においても優れた能力發揮する父のもとに育ち、
平治の乱・・1159= 4歳：

藤原定家やその姉妹とも交流、

・・・・・ 1164= **9歳：**

三十三間堂・1165=10歳：父の死去後、姉とともに、叔父範季のもとで育つ。

・・・・・ 1173= **18歳：**姉範子は平清盛の妻時子の兄弟能円の妻となっており、**源氏一斉蜂起**1180=25歳：高倉天皇の第四皇子(四宮)が誕生すると、時子の要請で、能円がその養育係、姉範子とともに乳母となるが、すでに、後白河天皇の異母妹八条院付きの女房であったらしく、・・・・・ 1182= **27歳：**後鳥羽天皇・1183=28歳：この年、姉範子が土御門通親の妻となる。平氏が安徳天皇を奉じて都落ちしたため、後白河上皇が四宮を後鳥羽天皇とすることについて八条院邸で会議した際に、"はばからぬ人"として参席、すでに重要な位置を占めていたことが分かる。

平氏滅亡・・1185=30歳：

奥州藤原滅亡1189=34歳：臨濟宗始・・1191= **36歳：**

鎌倉幕府始・1192=37歳：

後鳥羽天皇の信任を得、・・・・・ 1198=43歳：その院政開始とともに、土御門天皇の女房に出仕、
源頼朝没・・1199=44歳：権大納言藤原宗頼の後妻となる。*早くも典侍に任せられ、以後、急速に官位を昇進、梶原景時征討1200= **45歳：**・・・・・ 1201=46歳：この年、後鳥羽上皇の皇子冷泉宮頼仁親王が誕生。従三位に叙され、以後、"卿三位"と呼ばれる。・・・・・ 1202=47歳：宗頼と死別すると、同年中に前太政大臣大炊御門頼実と再婚。*土御門通親が死去し、後鳥羽上皇が院政を積極的に推進するようになるとともに、権勢を振るうようになります。**執権政治始**・1203=48歳：中山堂(安楽心院)で曼陀羅供を修した際に、上皇の臨幸を仰いだのをはじめ、源頼家暗殺・1204=49歳：同じ堂供養には上皇や七条院以下公家らも多く参集。源頼朝夫人北条政子の意に応じ、実朝の正室を迎える公家中枢から婚儀を成立させるなど、朝幕間の安定にも貢献、新古今集・・1205=50歳：同所で上皇の臨席のもとに逆修が行われた。太政大臣藤原頼実と再婚。(事実は土御門天皇の乳母であったが)後鳥羽上皇の乳母として位置づけられ、頼仁親王の養育係にもなる。**モンゴル帝国**・ 1206=51歳：上皇の熊野詣でに同行したのをはじめ、専修念仏禁止1207=52歳：上皇の宝算を祈るために高陽院御讀經所において五輪塔百基を供養し、上皇の寵愛する白拍子のため二条殿跡に新宅を造進するなど、上皇への奉仕に努め、従二位に叙さる。官職の叙任に際しての上皇への取次は他を圧倒して、宫廷政治を左右し、幕府側の北条政子と対比され、夫頼実も妻の権勢をたのみ、娘麗子を土御門天皇の中宮にし、養子師経を大将にしている。・・・・・ 1209= **54歳：**

・・・・・ 1211=56歳：その権勢のため、延暦寺内紛争の結果勅勅を受けていた堂衆方を上皇が宥免しようとした際、反対する学侶方から呪誦され、さしもの兼子も起請文を学侶方に提出し、その怒りを宥めることとなった。

北条霸権確立1213=58歳：・・・・・ 1216=61歳：造営したばかりの嵯峨の清淨心院に上皇を招待するなど、相変らず上皇との親密な間柄は続く。*この頃から政界における実力者としての面もみせるようになり、西園寺公經が大将に任せられることを望み、上皇の内諾をいったんは得た際にも、兼子は夫頼実の養子師経を先に大将にするよう上皇に奏上し、それを実現させた。このため公經は抗議し、逆に院勘を被るに至るが、將軍源実朝がその赦免を要請したときには、それをとりなしもした。3代將軍源実朝の正室に坊門信清の娘を斡旋し、養女として中山第から粧いも美々しく送り出すなど対幕府政策にも常に参与し、・・・・・ 1218= **63歳：**上京した北条政子と上皇側の全権として折衝、実朝の後嗣として自分の養育している上皇の皇子頼仁親王を候補者とし、大僧正雅縁から、興福寺別当就任要請のため水田30町を贈られるなどしたが、承久の乱・・1221=66歳：*承久の乱後も、北条政子の配慮でそのまま京に留まることができたが、その権勢は全く無くなり、所領をめぐる争いや群盜に家財を略奪されるなどの被害を受け、**北条政子没**・1225=70歳：頼実とも死別し、道元曹洞宗始1227= **72歳：**・・・・・ 1229=74歳：失意のなかで、没した。